

# 高台の緑に溶け込む 森の中の木の学び舎

おおぐろの森中学校（千葉県流山市）

## 本事例のキーワード

木材利用

脱炭素

ICT活用



写真撮影：輿水進

## 事例のポイント

児童生徒数の急増に対応するために新設された中学校。木造で整備することにより温かみのある教育環境を実現するとともに、ICT環境の整備にも取り組んでいる。

## 事例概要

流山市立おおぐろの森中学校は、つくばエクスプレス開業以降続く大規模な住宅開発による児童生徒数の急増を背景に、令和4年4月に開校した新設校である。その校舎は「高台の緑に溶け込む 森の中の木の学び舎」をコンセプトとして木造3階建てで整備されている。構造にも内装にも木材が多用された校舎には温かみと潤いが感じられ、そのお陰で落ち着いた柔らかな教育環境が生まれている。

校舎に使用した木材は、千葉県産スギや姉妹都市である長野県信濃町産カラマツを県内で加工した地域材である。また、流山市の治水に影響を与える利根川上流域の木材など、地域に縁のある木材を中心に活用し、木材使用量は3,500m<sup>3</sup>、炭素貯蔵量に換算すると2,850tの二酸化炭素固定を達成した、国内最大級の木造校舎群となっている。

流山市においては、児童・生徒の確かな学力を育成するため、ICTの活用にも積極的に取り組んでいる。令和2年に市内全小中学校の無線LAN環境を整備し、令和3年4月には1人1台タブレット端末の配備を完了。現在、タブレット端末を使った授業を積極的に展開している。おおぐろの森中学校においても、充実したICT環境を活かし、生徒1人1台のタブレット端末や、高機能の電子黒板等を使用する授業が日常的に行われている。



# 木材の利用による快適で温かみのあるリビング空間

学校施設は教育を行う場のみならず、児童生徒の社会性・人間性を育む場でもあり、それにふさわしいゆとりと潤いのある快適な空間であることが重要である。おおぐろの森中学校では、構造材として、また、内装材として、多くの木材が活用されている。木材の多用により、校舎内には温かみと潤いが感じられ、そのおかげで落ち着いた柔らかな教育環境が生み出されている。

その木質空間は、部屋の用途に合わせた多様な構造でつくられている。例えば、読書ラウンジは、フローリングの床に加え、木製の家具が配置されており、落ち着いた雰囲気の中で時間を忘れて読書に没頭したり、休憩をとることができるように工夫されている。多目的ホールは、姉妹都市である能登や信濃町の木材が使われ、階段状の作りとなっており、学年ミーティングや地域行事等で活用されている。また、図書室は木材の特性を生かし、幅が小さく奥行きのある、家具と一体的な架構でつくられ、親しみやすい空間となっている。

木造の校舎は、子供たちがゆっくり過ごしたり、落ち着いたりすることができる居場所となっている。



読書ラウンジは木製家具を配置し、生徒や教員のリフレッシュの場として活用されている



普通教室は柱、梁、天井の木材を現しで表現し、温かみのある学習空間となっている



ホールは階段状のスペースで学年集会や発表の場として活用されている



図書室は家具と一体的な架構とすることで、親しみやすい空間となっている

写真撮影：川澄・小林研二写真事務所

# 児童生徒の確かな学力を育成するためにICT教育を推進

個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実するためには、学校教育の基盤的なツールとして、ICTは必要不可欠なものとなっている。流山市では、児童・生徒の確かな学力を育成するため、ICTを活用した教育を推進しており、ハード面では、令和2年に市内全小中学校の無線LAN環境を整備し、令和3年4月には1人1台タブレット端末の配備を完了。以降、ICTを効果的に活用した学習を推進している。

おおぐろの森中学校では、普通教室に電子黒板機能搭載の高機能のプロジェクターが整備されており、プロジェクターで黒板上に資料や教材の提示がすぐにでき、電子ペンでタッチするだけで書き込みや操作ができるようになっている。授業では、プロジェクターを活用することで、学習課題を分かり易く提示して説明を行ったり、タブレット画面を使って思考や意見を共有することで相互理解を深める学習が行われている。また、欠席している生徒への授業の配信や、全校集会や校内行事の映像配信など、その他の場面においてもICT機器の活用が進んでいる。これらのICT機器の活用により、生徒の学びが深まることに加え、授業前の煩雑な準備が必要なくなるため、教員の負担が軽減され、教員の働き方改革にもつながっている。

その他、ソフト面においても、学習支援ツールを使うことで、教員は、タブレットで学習した児童・生徒個々の学習日や学習時間、学習進捗などの学習履歴を確認することができるようになっているため、個別最適な学びの充実や、きめ細かい指導や学習改善など、生徒一人一人への適切なサポートと学習評価の参考資料として活用されている。



高機能プロジェクターを活用した授業の様子



全校集会の映像配信の様子



タブレットを活用した授業の様子



タブレットを活用した授業の様子

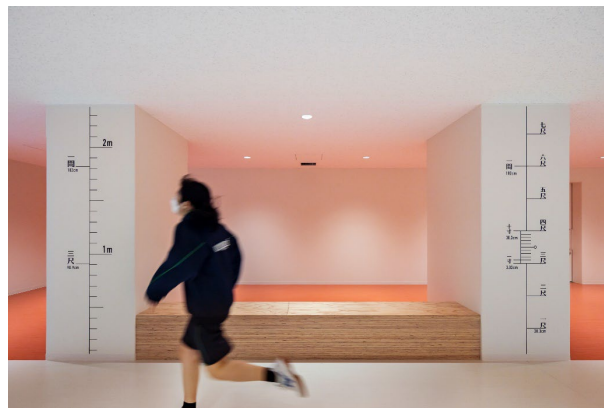
### 積極的に学びに参加できるサイン

教室のサインは、生徒数増加によるクラス数の変化に対応するよう、差替え可能なサインとなっている。特別教室のサインは、各教科の特徴を表すものとなっており、サインによって移動が楽しむことができる空間となっている。校舎間にある中庭に架かるガラス張りの渡り廊下では影を楽しむサインや、体育館前には身体寸法を確認し、身体を動かすきっかけづくりにもなるサインがデザインされている。また、生徒たちの環境への意識や関心を高めるため、校舎の木材使用量や炭素貯蔵量を紹介するサインも掲示されている。

移動空間の端には校舎建設前に発掘調査された、大畔中ノ割遺跡の様子が土器と共に展示され、地勢を学ぶことができる工夫も凝らされている。



「小林一茶」が縁ある流山の地で読んだ句をサインで表現し、歴史や風土を知るきっかけづくりになっている



体育館前のラウンジの柱には距離や高さを測るさまざまな単位が表現されている



校舎の木材使用量や炭素貯蔵量を校内に掲示



校舎建設前に発掘調査された大畔中ノ割遺跡の様子が土器と共に展示されている

### 学校概要

おおぐろの森中学校  
千葉県流山市

全体工期：令和2年10月～令和4年3月

学校規模：20学級、540人

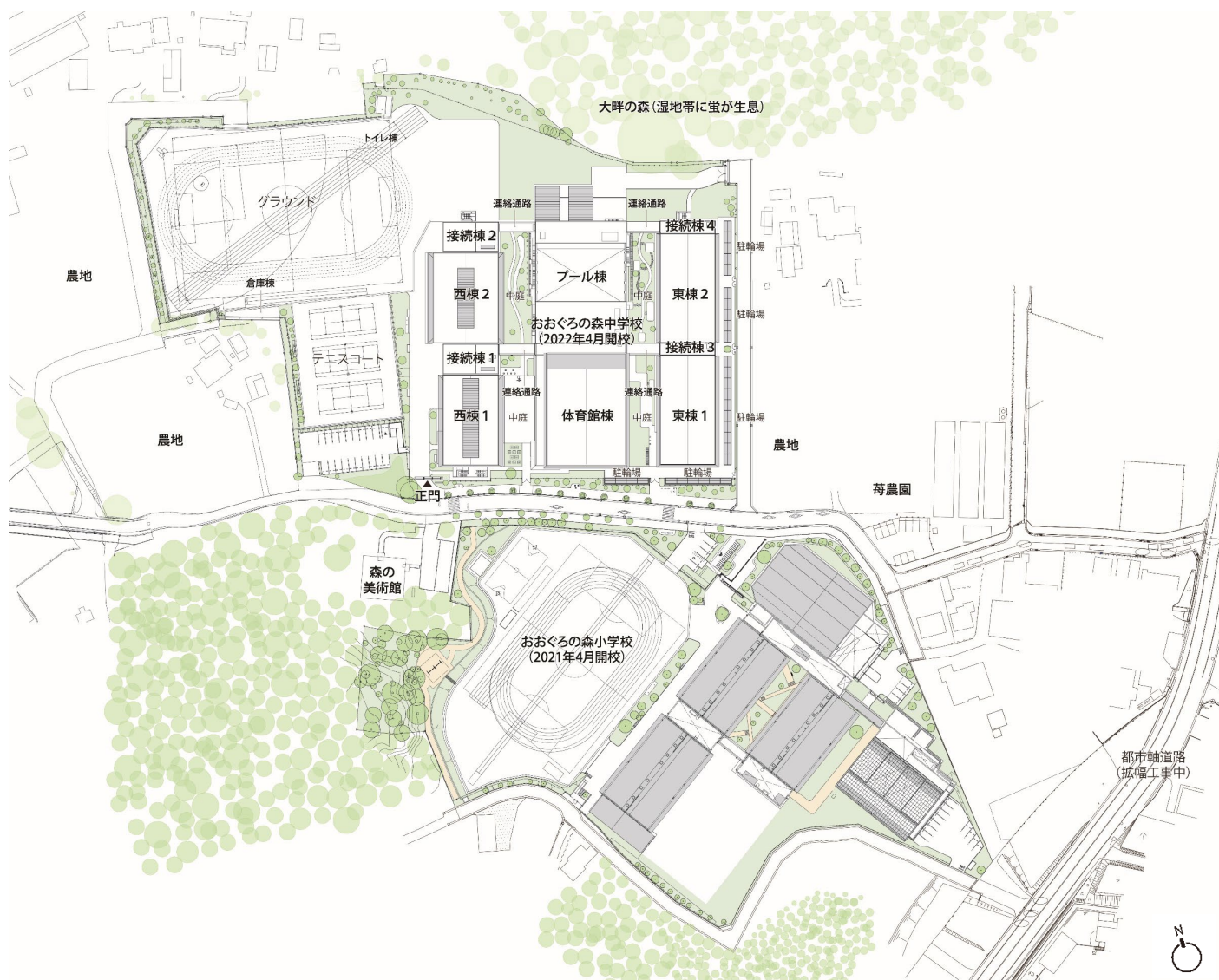
敷地面積：26,734㎡

保有面積：14,568㎡

構造：木造（一部RC造、S造）3階建

※令和5年5月1日時点

写真撮影：川澄・小林研二写真事務所



全体配置図



